

第 26 回建築防火基準委員会・防耐火規制の更なる合理化検討 WG（第 7 回）合同会議  
議事要旨

令和 4 年 6 月 24 日（金）9：30～12：30

（一財）日本建築防災協会 3 階会議室

（Web による会議形式と併用）

木造建築物等における防耐火規制の更なる合理化について

住宅局参事官付原口企画専門官等より、資料に基づいて説明。

(1) 法改正に係る検討状況報告

（説明のみで特に質疑等はなし）

(2) 特定主要構造部に係る基準検討方針

- ・上階延焼防止対策の 4. スプリンクラータイプに関して、現行耐火建築物においてもスプリンクラーを設置すればスパンドレル不要と受け止められる懸念がある。
- 耐火構造のスパンドレル基準を緩和するつもりはない。そのように受け止められないよう留意したい。
- ・特定区画内はある程度の時間経過後には崩壊してもやむなし（特定区画内在館者の避難が完了するまで崩壊しなければ良い）との考え方からすると、60 分準耐火要求は、ハードルが高すぎないか。なぜ 45 分ではなく 60 分なのか。
- ・特定区画内の床が崩壊すると、消防による救助に支障が出ることが懸念される。
- 盛期火災時に上階・下階が同時に燃えた場合、噴出火炎が大きくなるため。また、収納可燃物と部材が同時に燃焼している間は噴出火炎が大きいため、収納可燃物が燃え尽きるまでは二層同時火災が起こらないよう中間床に持ちこたえてもらう必要がある。なお避難については、内装の影響が大きいですが、別途内装制限が適用されることにより担保されると考えている。
- ・60 分でも良いと思うが、避難できれば良いという考えなら 60 分がマストではないと思う。60 分とする考え方を整理しておいて欲しい。
- ・防火・準防火地域における噴出火炎対策について、特定区画で発生した火災の外部へのリスクについて、防火・準防火地域の要件を満足する形でコントロールできるのか。建物全体の確率計算をして見ていくことについて若干懸念がある。
- 特定区画からの延焼危険性が一般的な区画と同じか下回る要求をすればよいと考える。確率計算上は一般的な建築物を包摂する各区画への要求を表したものであり、安全側の評価となっていると考える。
- ・応力再分配型について、ルート A は特定主要構造部が RC 造の場合のみとのことだが、耐火構造の木造の耐力壁も RC 造の壁と変わらないのではないか。

→耐火構造の木造耐震壁については、安全性を検証していないため、現時点ではルート A の対象とはできないと考える。安全性を検証した上で問題ないとなれば、将来的にはルート A の対象を拡大していく。

### (3) 採光無窓居室に係る直通階段への歩行距離制限等の合理化方針

- ・避難上有効な窓の代替措置として全館避難安全性の担保を求めているが、具体の措置として避難階の廊下の保護だけで大丈夫か。最近の火災事案を考えると、避難のサブルートを求めた方が良いのではないか。

→安全性を高める上では避難のサブルートを求めることも有効だとは思いますが、最低基準としてのバランスも考慮することが必要。ガイドラインとしてお示しすることは考えられる。

- ・堅穴区画が要求されない規模の建築物の場合はどうなるのか。

→堅穴区画が要求されない場合であっても、階段が汚染されないような措置は求める方向で整理する。

### (4) 内装制限規定の合理化方針

- ・壁について、ある一面を全て木で仕上げることも可能となるが、部屋の大きさについての制限はなくて良いのか。逆に天井については、極端に高い場合は制限がなくても良いのではないか。

→壁については現行基準においても室の規模を制限していないところ。天井については、収納可燃物のへの放射が着火限界以下になるよう、局所的な燃え広がりを抑制している。

- ・天井が斜めの場合、一気に燃え広がる可能性がある。引き続きよく検討して欲しい。

### (5) 小屋裏隔壁規定の合理化方針

- ・円滑な消防活動に資するよう天井がないこと、とあるが、天井をなくすことが円滑な消防活動に資するのかわかりません。消防庁とよく協議してほしい。

### (6) 排煙規定の合理化方針

- ・自然排煙口の不燃化要求を廃止するという理解で良いか。

→市場流通品の中で最も不利なもので検証した結果、樹脂サッシ、木サッシは問題ないと考えている。何でも良いとは考えていない。

- ・自然排煙口は、高温の煙に晒された際に、開閉機構に影響がないことと、開いた状態を維持できることの2点が重要。これらは分けて考えているか。

→開閉機構への影響は、別途 200 度の煙に晒して試験することになっているので、専ら開いた状態を維持できるかどうかについて検証している。

- ・煙層の温度が 180 度という設定での検証となっているが、実際は煙層は 450 度くらいまで上がる。
- 自然排煙口は人が開閉することが前提なので、人がいられるような火災初期の加熱条件を想定している。
- ・ということは、居室避難が完了するまでは少なくとも開いているということになるが、大きな室になると居室避難完了までに一定の時間を要し、その間に火炎が成長し煙層の温度が想定するより高温になるということはないか。
- どのくらいの煙層温度までを想定しているか、確認する。

以 上